

第2部 北九州市の平成24年度予算

1 平成24年度予算のポイント

平成24年度予算は、昨年末に選定された「環境未来都市」や「国際戦略総合特区」の取組みを通じて、「環境」と「経済」の両立を図る「緑の成長戦略」をさらに加速させ、人にやさしく元気なまちづくりを目指します。

その中で平成24年度予算の重点的に取り組むポイントを5つの柱に整理いたしました。

平成24年度予算を「環境未来都市創造元年予算」と名付け、厳しい経済・財政環境の中、持続可能で安定した財政を確立・維持していきます。



5つの柱

① 環境未来都市・国際戦略総合特区関連等『緑の成長戦略』や地域経済対策の推進

環境未来都市では、「環境」「超高齢化」「国際化」等の課題に取り組むことで、「誰もが暮らしたいまち」「誰もが活力あるまち」の実現を目指します。

国際戦略総合特区では、福岡県、福岡市と連携して、アジアの活力を取り込み、環境を軸とした産業の競争力を強化していきます。

さらに地域経済活性化に向けた経済・雇用対策の取組みを強化します。

② 市制50周年事業の実施とシティプロモーションの展開や、中心市街地活性化など『にぎわいづくり』の推進

平成25年2月に市制50周年を迎えるにふさわしい記念事業に取り組み、さらなる市民意識の共有と一体感の醸成を図るとともに、将来を担う子ども達に夢や希望を与え、このまちの未来につなげます。併せて、シティプロモーションの強化や、中心市街地活性化の推進など、まちのにぎわいを創出します。

③ 子育て・教育、福祉・医療の拡充

「元気発進！子どもプラン」や平成24年度からの「第三次北九州市高齢者支援計画」などに基つき、子育て・教育、福祉・医療に関する施策の充実を図ります。

④ 災害対策の強化、防犯・暴走運動の推進など安全・安心なまちづくりの推進

建築物の耐震診断・改修などの災害対策をより一層強化するとともに、防犯・暴走に向けた取組み等にも力を注ぎ、安全・安心なまちづくりを強力に推進します。

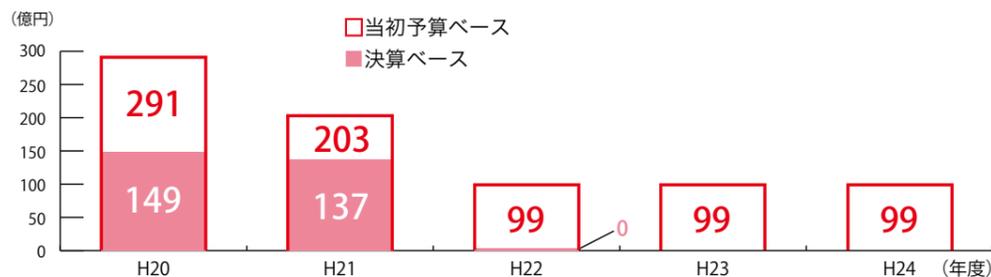
⑤ 市民・地域との協働・連携の推進

地域コミュニティを強化し、「人にやさしく元気なまちづくり」を市民、地域団体・企業などとの協働・連携により進めます。

【健全な財政の確保】

平成24年度における財源調整用基金の取崩額は、平成23年度予算と同水準の99億円になります。これにより、単年度収支均衡の実現に目途を立て、「持続可能で安定した財政の確立」の実現を着実に進めていきます。

【財源調整用基金の取崩額推移】(再掲)

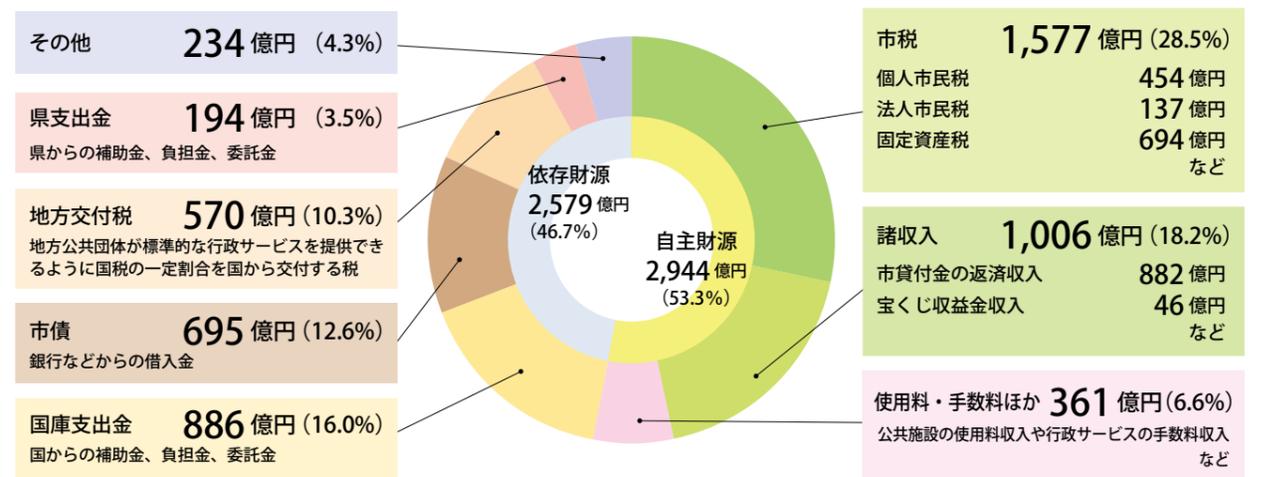


2 平成24年度予算の内訳

平成24年度当初予算の内訳は、次のようになっています。

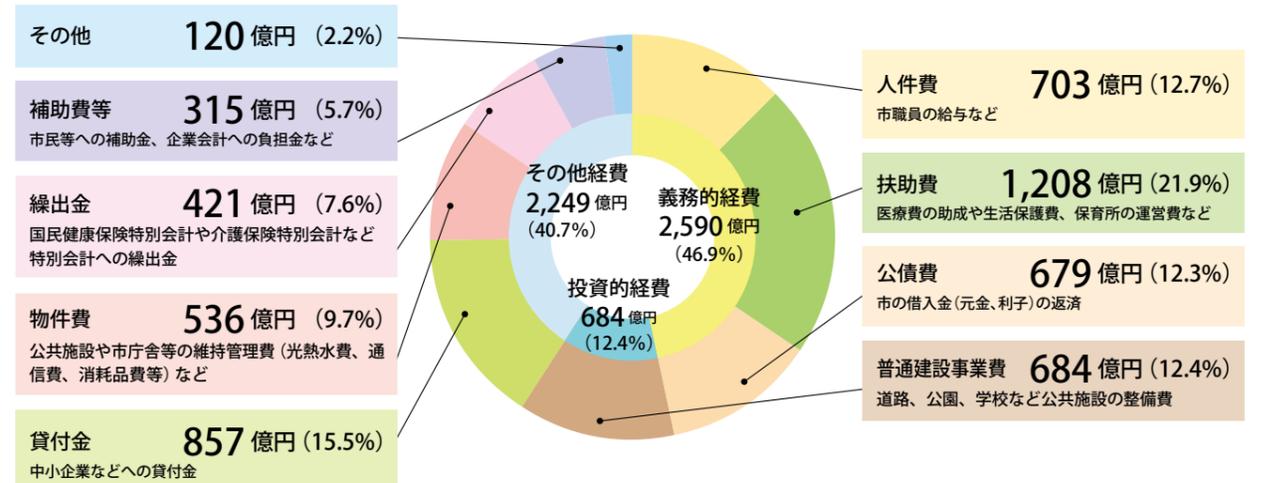
(1) 歳入予算の内訳(一般会計)

歳入総額 5,523億円



(2) 歳出予算の内訳(一般会計)

歳出総額 5,523億円

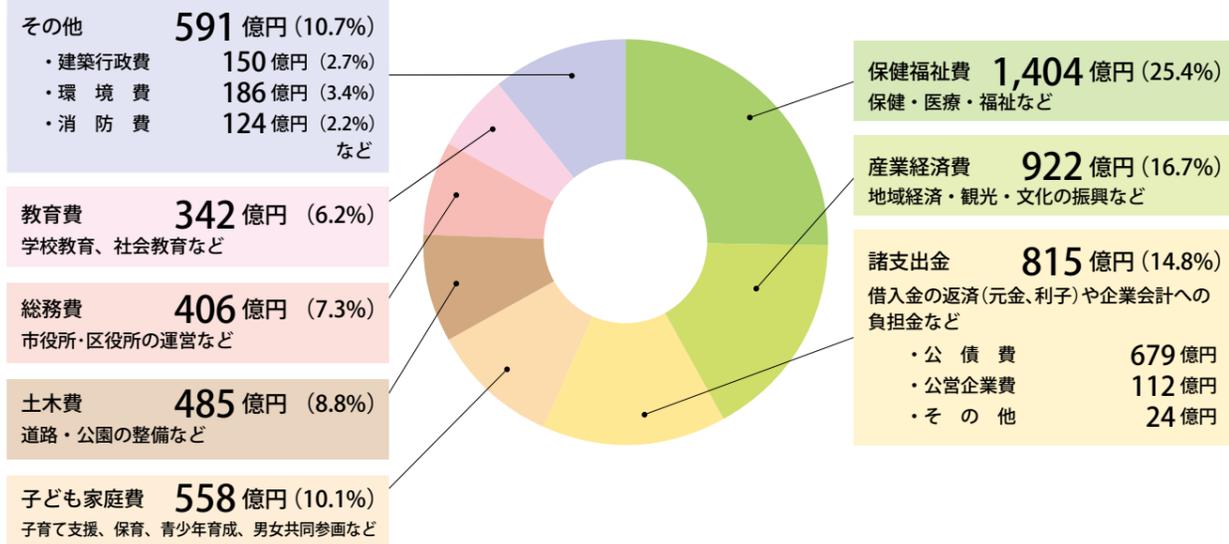


【参考】歳出の目的別内訳と全会計の予算額

【目的別の歳出予算】

一般会計の歳出予算を、教育費・土木費などの「行政的」に従って分類すると、次のようになります。

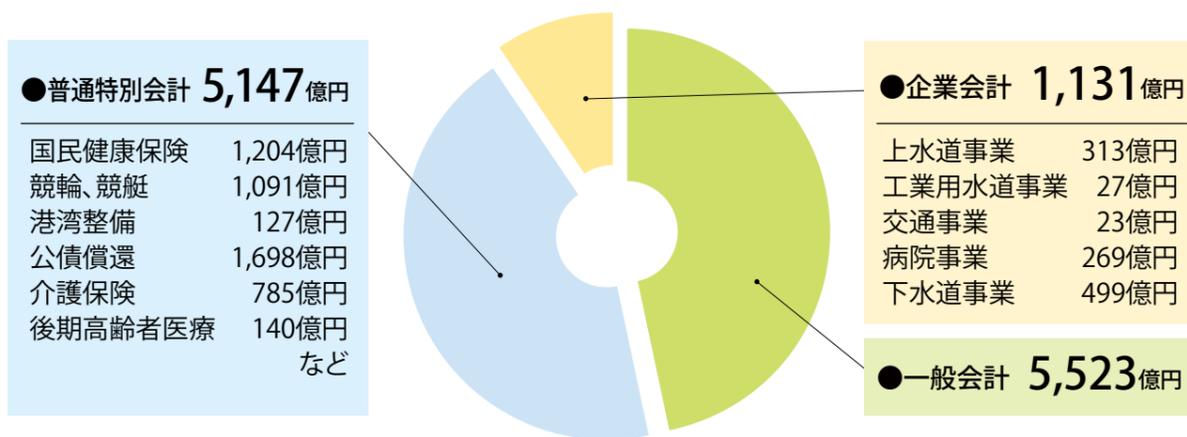
歳出総額 5,523億円



【全会計の予算額】

市の会計には一般会計のほか、普通特別会計と企業会計があり、平成24年度予算は総額で1兆1,801億円となっています。

予算規模 1兆1,801億円



【参考】北九州市の家計簿 年間の収支500万円の家計に置き換えてみると…

北九州市の会計と家計ではお金の使い道も異なり単純に比較できないところもありますが、市の予算を、年間の収支500万円の家計に置き換えると、次のようになります。

() 数字は前年比

収入		予算額	支出		予算額
給与		195万円 (△3万円)	食費	(人件費)	64万円 (△1万円)
基本給(市税、使用料・手数料、財産収入など)		175万円(△3万円)	家族の医療費など	(扶助費)	109万円 (3万円)
諸手当(地方譲与税、県税交付金)		20万円(0万円)	銀行への借入金の返済	(公債費)	61万円 (0万円)
銀行からの借入れ	(市債)	63万円 (2万円)	自宅の改築、車・電化製品の買替えなど	(投資的経費)	62万円 (2万円)
生活資金借入れ(臨時財政対策債)		28万円(2万円)	光熱水費、通信費、修繕費など	(物件費・維持補修費)	57万円 (△1万円)
自宅の改築等借入れ(その他市債)		35万円(5万円)	子どもへの助成・仕送り	(繰出金・補助費など)	67万円 (0万円)
親からの助成・仕送り	(国県支出金など)	99万円 (6万円)	預金	(積立金)	2万円 (0万円)
	(地方交付税)	52万円 (0万円)	友人などに貸すお金	(貸付金)	78万円 (1万円)
預金の取り崩し	(繰入金)	10万円 (△2万円)	合計		500万円 (4万円)
友人などに貸していたお金の返済金	(貸付金元利収入)	81万円 (1万円)			
合計		500万円 (4万円)			

24年度の家計の収支500万円の内訳は、昨年に比べて4万円ほど収入・支出が増えました。給与が減ったのですが、親から仕送りが増えたため、結果として預金の取崩も減っています。支出については、増え続ける医療費をまかなうために食費や光熱水費、通信費等を切り詰めており、自宅の改築、車・電化製品の買替えについても必要なものだけをメリハリをつけて行っており、しっかりやりくりをしています。